



門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和5(2023)年1月27日

第64号

編集・発行：校長 上甲 尚

福島の食と農について学ぶ 1年生



1年生は24日(火)の6時間目、佐藤宏美さん(一般社団法人GDMふくしま代表理事)をお招きし、「福島の食と農の誇りを取り戻すために～青空市場GoodDayMarketの挑戦～」と題し、お話を聞かせてもらいました。

福島県出身の佐藤さんは、大学卒業後、京都の老舗料亭に就職されました。しかし、2011年3月の東日本大震災の津波で起きた原子力発電所の爆発事故により福島の食と農が放射能で汚染され、壊滅的な大打撃を受けたことにショックを受け、職を辞して故郷の福島に戻られます。そして、福島の食と農の復興に尽力されています。風評被害と闘いながら、懸命に安全でおいしい農作物を作り続けている福島の農家の方々に支援し、地道な取り組みを続けておられます。

今後、取り組んでいきたいこととして、①食べ物を通して周りの人々の健康な暮らしを支える、②人間だけでなく、動物や植物も暮らしやすい自然環境をつくる、③農業の楽しさをもっと支える、とおっしゃっていました。東日本大震災から12年近く経ちますが、まだまだ復興途上です。とても考えさせられるお話でした。いい学びになりましたね。

多文化共生教育 2年生

～外国の方々をお招きし、いろいろなお話を聞きました～



2年生は26日(木)の5・6時間目、「多文化共生教育」の取り組みとして、韓国、フィリピン、モンゴル、マレーシアの4か国の方々をゲストティーチャーとしてお招きし、お話を聞かせてもらいました。あらかじめ班毎に選んだ2つの国について、その国の生活習慣や文化、宗教、言語、食事、日本との違いや日本での体験など、様々なお話を聞かせて

もらいました。

事前学習として、「マイクロ・アグレッション」(マイクロ=小さな、アグレッション=攻撃、という意味です)について学びました。自分では意識しないうちに、相手の人を傷つけたり、誰かのことを先入観で決めつけて、結果的に差別につながるような言動をしてしまうことを「マイクロ・アグレッション」といいます。例えば、父親がアメリカ人、母親が



日本人のダブル(ハーフとも表現します)の子どもを見た目だけで決めつけて、「どうして英語を話せないの?」と聞いたりするような行為です。自分にはそのつもりはなくても、知らず知らずのうちに相手の人を見下したり、傷つけたり、差別してしまったりすることがあるのです。それを防ぐには、知ること、学ぶこと、気付くことが大切です。

今は「ダイバーシティ」(多様性)の時代と言われています。日本と違う文化をもつ外国から来られた方のお話を直接聴いて、みなさんは何を感じたでしょうか?今回の学習で異国の文化への理解と、外国への興味・関心が深まったのではないのでしょうか。ひとつひとつ学んでいきましょう。



渡日生の交流行事 ～脇田小、砂子小児童と～



16日(月)、20日(金)の朝、渡日の生徒(中国につながるのがある生徒)たちが脇田小学校、砂子小学校を訪れて交流会を行いました。中国の「春節祭」にちなんで、切り絵を小学生と一緒に作りました。四中生がやさしく作り方を教え、楽しく作業し、交流を

深めました。

また24日(火)の放課後には、砂子小学校の体育館に3校の渡日生が集まり、レクリエーション大会を行いました。ハンカチ落とし、ドッジボールに興じ、楽しく遊びました。今後もこういった交流行事をとおして、子どもたち同士が触れ合い、地域でのつながりも深まればと思います。参加してくれた渡日生の皆さん、ありがとうございます。



3年生の皆さんへ



3年生は学年末テスト、お疲れ様でした。中学校最後の定期テスト、どうでしたか。ベストの取り組みはできましたか。これから高校入試がありますので、また気持ちを切り替えていきましょう。体調管理に気を付けながら、時間を有効に活用し、計画的に勉強していきましょう。応援していますよ!

そりゃ、僕だって勉強や野球の練習は嫌いですよ。誰だってそうじゃないですか。つらいし、大抵はつまらないことの繰り返し。でも、僕は子供のころから、目標を持って努力するのが好きなんです。だってその努力が結果として出るのはうれしいじゃないですか。(イチロー)

できると思えばできる、できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。

(パブロ・ピカソ)